

国内企業 助け合い活路

コロナで輸入減、地産品発掘

新型コロナウイルスの感染拡大で国内経済のダメージが深刻になる中、企業が連携を強めて助け合う動きが出始めている。中国などから商品の輸入が滞

る事態も起き、調達先を国内に求める動きが加速。支援する金融機関の活動も本格化している。

三越伊勢丹ホールディングス(HD)は、全国の信用金庫でつくる「よい仕事おこしフェア実行委員会」と包括的連携を結んだ。三越伊勢丹では中国など海外からの商材の調達が一時的にストップ。この提携を通じて新たな地域産品の発掘や販路の拡大、国内技術を活用したもののづくりに取り組む。打撃を受けてい

る全国の中小・零細企業を応援していく考えだ。

一方、金属製品の製造・販売を手掛ける日東工器(東京都大田区)は城南信用金庫(東京都品川区)の本店で特別商談会を開き、自動車関連の仕事に携わる地場の会社などが参加した。日東工器は海外に発注している業務の一部を景気悪化に苦しむ地場の会社へ振り向ける考えだ。

(嶋村光希子、生島章弘) = 7面に続く

※東京新聞の使用許諾済(許諾番号13908)

よい仕事実行委と三越伊勢丹HD連携 売り上げ減の中小支援

全国の信用金庫でつくる「よい仕事おこしフェア実行委員会」と包括的連携を結んだ三越伊勢丹ホールディングス(HD)。全国の中小企業とつながっている、実行委の信金ネットワークを利用して、三越伊勢丹のカタログギフトなどに紹介する地域産品を発掘していくほか、七月のレジ袋有料化を前にした紙製の手提げ袋や、間伐材を活用したフォトフレームや食器などの商材を国内の中小企業に発注していく。実行委と連携することで、サプライチェーン(部品の調達・供給網)の強化も図る。

(嶋村光希子、生島章弘) = 7面参照

実行委の事務局である城南信用金庫の川本恭治理事長は、「今取引先の企業は本当に困っている。売り上げがなくなってきたなかで、融資をするだけでは問題が解決しない」と話している。三越伊勢丹など大手の支援も得ながら、中小企業を支援していく方針を示した。

一方、「社会への貢献」の中小企業などが参加。金を

を経営方針に掲げている日東工器は新型コロナウイルスの問題を踏まえてサプライチェーンのあり方を点検。地場の会社へ振り向ける方法を城南信用金庫に相談した。城南信用金は取引のある中小企業に声をかける「橋渡し役」を務め、会場も提供した。

商談会には、自動車関連の仕事も多く請け負う都内の中小企業などが参加。金

属の研磨機に使う部品の試作品づくりをはじめ、具体的な協力分野について話し合った。

日東工器の小形明誠社長は「優れた技術を持ちながら、仕事がなく困っている中小企業もある。こういう時こそ地場の会社同士が助け合い、危機を乗り越えられればという思いだ」と話

※東京新聞の使用許諾済(許諾番号13908)